

抽象であらわす私の心 —A 表現 (1) (3) —

～抽象表現で、自己の内面をあらわすことに挑戦！(中学校第3学年)～

広島市立〇〇中学校 〇〇 〇〇

1 日時：平成24年〇月〇日(〇)

2 題材について

○ 本題材では中学校学習指導要領美術 A 表現 (1) 及び (3) を受け、抽象表現を用いて自分の心情を表現することに取り組む。まず作品に用いる表現方法であるモダンテクニックを体験する。モダンテクニックは、抽象表現になじみの少ない生徒にとって、発想力や描写技術の有無にかかわらず、想像以上の表現効果をもたらす有効な技法である。次に抽象作品を鑑賞し、抽象による表現の可能性や作者の思いを感じ取り、制作計画を練る。計画では本題材のテーマになる「自己」について、マインドマップを活用して深く見詰め直し、それを表現するのに必要な形・色彩・技法を考える。自分と向き合い理想の表現に迫る過程で、自己の内面を深く見詰め感じ取る力や想像力を一層高め、表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。ただモダンテクニックを活用するだけでなく、主題を表現するための意図を持って、色の広がりや生み出される形をコントロールし、各生徒の心が伝わる作品を目指す。また、作品の説明となるキャプションも併せて制作し、仲間の思いを読み取りながら作品を味わう相互鑑賞の時間を設け、作者の心情・意図と表現の工夫を感じ取りながら主体的に鑑賞する能力を高める。

○ 本学年の生徒は、その多くが美術の授業に意欲を持って取り組むことができている。前期前半の照明器具の制作で、多くの生徒が暮らしの中での照明の役割を理解し、材料や光の特性を生かした作品を作ることができた。しかしながら、主題を決めてそれに沿う表現を創出したり、作品から感じることを伝えたりする力は十分に育っていない。

表現においては、第1学年時からマインドマップ等を用いて与えられた課題から連想することで、言葉で発想を広げることを実践している。しかし、それをどんな形や色彩で表現できるのかを具体的に考えることができる生徒は限られている。

鑑賞においては、生徒のレポートには「～がすごい」「～が良いと思う」などわずかな語彙で作品の感想を述べたものが多く見られる。作者の意図に深く共感したり、表現をじっくり観察してそれに基づいた感想を述べたりしているものは第3学年生徒全体の2割程度である。また、気に入った作品は見つけることができてもその感想を言葉で表現することが不得意な生徒もいる。

○ 指導に当たっては、題材の初めにモダンテクニックで偶然できる形や色を楽しみ、それぞれの技法がどのようなイメージと繋がるかを言葉で発想するプロセスを踏ませる。次にモダンテクニックを生かしたジャクソン・ポロックの作品を鑑賞することで、作品制作の構想を練る手がかりにする。この鑑賞授業においては、素材の重なりや支持体の質感を感じられるような大判ポスターを用意し、生徒の中から多くの疑問やつぶやきを拾い、それを全体で共有する形で表現の意図についてじっくり考えられるように進める。構想を練る段階では、マインドマップを用い、自分について様々な言葉で表現する。多くの言葉の中からキーワードを選び、今回表現したい主題を考えたら、それがどのような形・色彩・技法で表現できるのか、ワークシートを埋める形式で考えやすくする。主題に対し、適切な表現を選ぶことができているかどうかを個別に評価・指導することで、どの生徒も制

作のイメージを具体的にもつことができるようにする。モダンテクニックを1つ必ず用いるという条件は、絵が苦手な生徒の着彩や造形に対する抵抗感を少なくすることができる。偶然できる形や色彩に感動し、素材を重ねることに楽しさを感じながら制作を進められるようにしたい。完成作品の鑑賞授業では、タイトルと表現の関係を見つけたり、形や色彩に着目したりし易いようワークシートを工夫する。また、国語科の教材を用い、鑑賞文のポイントを学習することで、自分の思いを根拠を持って具体的に語るができるよう指導する。

3 題材の目標

抽象表現に関心を持ち、それを生かして心の世界を表したり、味わったりすることができる。

4 評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<p>1 主体的に構成・技法を工夫して自己の内面を表す構想を練ろうとしている。</p> <p>2 モダンテクニックを生かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。</p> <p>3 形や色彩による印象や、作者の心情・意図と表現の工夫を主体的に感じ取ろうとしている。</p>	<p>1 主題を基に想像力を働かせ、形や色の効果を生かして表現方法の組合せなどを考え、自分を抽象画で表現するための構想を練っている。</p>	<p>1 表現方法の特性を理解し、見通しをもって制作している。</p> <p>2 表したい自己の内面を、モダンテクニックを生かし、形や色の組合せなどを工夫して、創造的に表現している。</p>	<p>1 形や色の特徴や個性を味わい、作者の魅力や思いと関連付けて鑑賞することができる。</p>

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	学習内容（時数）	評 価					評 価 規 準	評価方法
		関	発	技	鑑			
1	○ モダンテクニックを体験し、多様な表現を味わう。 （2時間）	◎		○			関2 技1	行動観察 試作品
2	○ 抽象絵画に関心を持って鑑賞し、その表現を味わう。 （1時間）	○			◎		関3 鑑1	行動観察 ワークシート
3	○ 主題を考えながら抽象絵画作品の構想を練る。 （1時間）	○	◎				関1 発1	ワークシート 行動観察

4	○ 抽象絵画作品を制作する。 (3時間 本時1 / 3時間)	○		◎		関2 技2	行動観察 作品
5	○ グループ内で作品を相互鑑賞し、発想・構想や表現技法の魅力を感じる。 (1時間)	○		◎		関3 鑑1	ワークシート 発表

6 本時の展開 (5 / 8時間)

(1) 本時の目標

- 「自分の内面を表現する」という主題を基に形や色彩、表現方法を工夫し、創造的に表現する。

(2) 観点別評価規準

- モダンテクニックを生かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。[美術への関心・意欲・態度]
- 表したい自己の内面を、モダンテクニックを生かし、形や色彩の組合せなどを工夫して、創造的に表現している。[創造的な技能]

(3) 準備物

画用紙, ワークシート, モダンテクニックに必要な用具

(4) 学習の展開

学 習 活 動		指導上の留意事項 (◆努力を要する生徒への指導の手だて)	評 価 規 準	評価方法
導 入	○ 前回までに練った構想を振り返る。 ○ 本時の目標と、活動内容を確認する。	○ 具体的な構想が感じられるワークシートを参考に提示する。		
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 主題とつながる形・色彩を選び、抽象で「私の心」を表現しよう。 </div> ○ 構想と手順を確認し、制作する。	○ 前時までに制作した構想シートを机上に置き、主題を表現するための形や色彩に留意するよう指導する。 ○ 主題を表現するに当たり、同じ技法でも絵の具の色やわずかな量の加減で現れる表情が変化することを押さえる。 ◆ モダンテクニックの手順を理解していない生徒に	○ 関2 ○ 技2	○行動観察 作品

		<p>は、手本を示す。</p> <p>◆ 構想シートに具体的な手順を示すことができていない生徒には声をかけ、主題がよく伝わる形・色彩・技法になるよう指導する。</p>		
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分担で片づけをする。 ○ 途中経過を発表する。 ○ 振り返りシートに本時の気づき・感想を記入する。 ○ 次時の流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 片づけで移動する際に、他の生徒の作品を見学するよう指導する。 ○ 数人の生徒に、形や色彩を意識させながら、作品のどこに主題があらわれているか発表させる。 	○ 関2	○振り返りシート